



KINAN HOSPITAL
OFFICIAL INFORMATION PAPER

November 1st.2016

vol.49

さざん くるす



根来寺 (岩出市)



上部消化管グループの試み

当院外科は、臓器別に担当医が決まっています。上部消化管グループは私と中川医師が担当しています。上部消化管の疾患といっても、ほとんどが胃癌になりますので、胃癌の手術についてこの機会にお話したいと思います。当たり前ですが、できるだけ患者さんにやさしい手術を心がけています。やさしいとは、根治性が高い手術を行う事はもちろんとして、合併症が少ないこと、後遺症が少ないことなどが重要です。今年から上部消化管グループは若干のメンバーチェンジがあり、この機会に二つの新しい試み(術式)を導入しましたので紹介いたします。

胃癌の手術はご存じのとおり、病変を切除するのですが、胃を全部切除する胃全摘と、胃の下部三分の二を切除する幽門側胃切除が基本で、当科でも長らくこの二種類の術式を癌の場所によって使い分けてきました。例えば進行胃癌については、根治性と胃全摘の後遺症による生活の質の低下を天秤にかけると、根治性を優先して胃全摘を選択することに異論はないでしょう。しかし、5年生存率が95%以上ある早期胃癌(リンパ節郭清が縮小できる)には胃全摘という術式はいかなもののでしょうか?という考えから、一つ目の新しい試みとして噴門側胃切除を積極的に取り入れることにしました。この術式自体は以前からあるもので、噴門を含めた胃の上部を切除し、胃の二分の一以上を残す術式です。胃の上部に限局し、画像的・肉眼的リンパ節転移がない早期胃癌が適応となります。胃全摘に比べ、胃の下部が温存されるので胃酸分泌能が残り、残胃の貯留能も残ることから術後の摂取量も多く、胃全摘に比べ生活の質が保たれることが期待されています。しかし、噴門側胃切除術の障害として最も頻度が高く生活の質を下げるものとして、逆流性食道炎があります。このため、当科では噴門側胃切除をこれまで行っていなかったのですが、最近逆流性食道炎の徹底した予防をめざして考案された「観音開き法」という再建法を取り入れることで、生活の質を下げることなく噴門側胃切除を行うことができるようになりました。

もう一つの試みは、完全鏡視下の幽門側胃切除の導入です。これまでは胃切除、リンパ節郭清は腹腔鏡下で操作し、再建(残胃と十二指腸の吻合)は、腹部に開けた小さな切開(小開腹)部より、開腹手術と同じ方法で行っていました(腹腔鏡補助下幽門側胃切除と言います)。完全鏡視下手術の場合、再建まで腹腔鏡下に行います。腹腔鏡補助下の場合は、小さな開腹創から再建操作を行うのでとても視野が悪く、特に肥満症例では合併症や術後の後遺症のリスクが高くなりがちでした。しかし、完全鏡視下の場合は、腹腔鏡でしっかりと確認しながら行うため、安全かつ高い精度で再建操作が行えます。もちろん、それなりの技術を要すわけですが、私たち上部消化管グループは、常に技術の習熟のために努力いたしております。

外科全体としても、時代のニーズに沿った治療を心がけております。相談事があればいつでも気軽に声をかけてください。



外科部長
道浦 俊哉

和歌山県北部の岩出市にある「根来寺」は、1132年に高野山の学僧でもあった覚鑿(かくばん)上人によって開創された新義真言宗の総本山です。

室町時代末期には僧侶を育てる学山として一大勢力の基地となりましたが、天正13年、豊臣秀吉の紀州攻めによりその建物のほとんどを焼失してしまいました。そのときに残った「大塔」と

「本尊三尊像」「大師堂」はそれぞれ国宝と国の重要文化財に指定されています。

広い境内は、春は桜、秋には紅葉の名所として有名です。根来寺の紅葉は、これ以上ないほどの鮮やかな「赤」に染まる楓がメイン。900年の歴史の重みを感じさせる古い寺院で、多くの文化財を鑑賞しながら紅葉が楽しめます。

根来寺は境内全体が紅葉の見どころですが、駐

車場を出てすぐ、境内を流れる大谷川周辺の『もみじ谷』と呼ばれるエリアはとりわけ美しい景観です。緑から黄色、朱色、赤へと移りゆく自然のグラデーションが眼前に広がり、赤く色づいた木々の間からは国宝の大塔を望むことができます。



循環器科医長
岩畔 哲也

この度、当科の紹介文を寄稿させて頂くことになりました循環器科の岩畔と申します。見ず知らずの田辺に来てから早5年が経過し、赴任当初は素人同然であった自分がこうして循環器についての文章を書かせて頂くことになるとは思ってもやらず、感慨に耽りながら筆をとっています。

現在はデバイス治療を中心に日々業務を行っておりますので、今回はペースメーカー(以下PM)、なかでも最近急速に普及しているMRI対応PMについて簡単にお話しさせていただきます。

PMは徐脈性不整脈に対し、“足りない脈を補う”ために植え込まれますが、歴史は1932年に遡ります。当時は体外式で、しかも患者さん自身が手回して発電しなければなりません。それから80数年の歳月が経ち、今では年間約6万件のPM移植術が施行され、その間体内植え込み化・電池の長寿命化やサイズ縮小など目覚ましい発展を遂げてきました。しかし、最近までPM植え込み後の患者さんはMRI検査が出来ないという大きなデメリットを抱えていました。MRIは多くの専門科で利用される有用な検査ですが、とりわけ脳梗塞の急性期診断には必要不可欠な検査で、MRIが受けられないことにより診断が遅れ、治療が遅れるといった問題がありました。しかし2012年に胸部以外の領域でMRI撮影が可能PMが発売され、現在では全身撮影可能なものや、1.5Tのみならず3Tにも対応したものが次々に発売されており、当院でも多くの手術で植え込んでおります。治療の選択肢が増えるということは術者及び患者さんにとってとても良いことだと思っております。なお、MRI撮影時には循環器医師の立ち会いなど、いくつかの条件を満たす必要がありますので、検査を予定している先生方は必ず事前に当科までご連絡下さい。

また、その他ホームモニタリングサービス(以下HM)というのものも最近のトピックです。

現在PM植え込み後は年2回のフォローを行っておりますが、無症候のトラブルが発生した場合、次回外来まで気づかれないという欠点があります。また、当院には那智勝浦や串本・龍神といった遠隔地からも高齢な患者さんが多く来院されますが、片道数時間の通院は大変な負担・リスクになります。トラブルを未然に防ぐことは非常に重要で、HMでは無償でリースされた発信機が1日に1~2回、不整脈などのイベントやアラート情報を確認し、必要があれば翌朝には病院に知らせてくれます。そのため、トラブルを未然に回避できる可能性が高まり、術後の管理においても非常に有用なサービスといえます。

とは言っても、いくら機器が発達しても、それを十二分に使いこなせなければ意味がありません。当院の大きな強みとして、コメディカルのスタッフの方々の技術・知識が非常に卓越しており、首都圏にも負けない実力を兼ね備えていることがあります。PMも業者ごとに細かな違いがあり、多くの種類のPMを使いこなすことは大変です。恥ずかしながら私も幾度となくスタッフの皆さんに助けられたかわかりません。そういった総合力の強さこそが紀南病院の強みだと思っています。まさに今年25年ぶりに優勝した広島東洋カープの様です!!

最後に現在当科は赤木病院長・木村桂三主任部長の下、個性豊かな総勢7名で業務を行っております。私の学生時代の循環器Drのイメージといえば、眼はギラギラ、口癖は『カテ、カテ〜。』、急変時は異常にテンションが上がり、オラオラ感満載といった感じでしたが、当科スタッフは違います。穏やかな性格、爽やかな外見。歩いた後には甘い香りが一陣の風となって吹き抜け、LuxのCM依頼が来ないのが不思議なほどです。現在は冠動脈/末梢血管のカテーテル治療やデバイス治療を中心に、不整脈に対するアブレーション治療も行っております。何かお困りのことがありましたら、遠慮せずお声掛け頂ければと思います。今後とも、循環器科を宜しくお願い致します。

研修医日記

皆様こんにちは。今年の4月から紀南病院で初期臨床研修医として働かせて頂いております、藤内 康平(とうない こうへい)と申します。今回、研修医日記ということで自己紹介する場をせっかく頂きましたので、これまでの経歴を簡単にご紹介させていただきます。

私は徳島生まれ、香川育ちの四国人であります。故郷香川県は、自ら「うどん県。それだけじゃない香川県。」と名乗るほど讃岐うどんで有名で、そのキャッチフレーズに反して、それだけしかないと言っても過言ではありません。そのためか、県民のうどん推しは尋常ではありません。県民がうどんを食べすぎて糖尿病罹患率No.1に輝いてしまったり、雨が降らない土地柄、毎年干ばつに悩まされているにも関わらず、うどんを茹でたりシメたりする水は一切惜しまなかったりと、彼らのうどんへの愛は留まるどころを知りません。かくいう私も、うどん県民の頃は、毎日放課後うどん屋にたむろし、昼食と夕食の間にアフタヌーンティーかのように大盛りのうどんを挟んでいました。そのおかげでかなり大食いになってしまい(うどんは最高7杯食べたことがあります)、こんな恰幅になってしまったわけです。研修医として働き始めてから、あらゆる上級医の先生方に「研修医感がない。」や「先生何年目やっけ?」とご指摘頂きましたが、全てこの恰幅のせいであることは言うまでもありません。(…すみません、これからはより一層謙虚に勉強させていただきます。)

田舎の、とりわけ香川のような海を渡らないと街がないような土地の若者は皆、都会に憧れを抱くものです。私もその一人で、高校卒業後は親元を離れて都会で一旗揚げやろうと目論んでいました。しかし高校2年生の時、アニメ鑑賞とネットゲームにハマってしまった私は勉強などほとんどせずに、大学受験は惨憺たる結果に終わりました。かくして浪人生となった



研修医
藤内 康平

今回は、ご夫婦で山西内科胃腸科眼科医院を開業されていて、眼科を担当されている山西陽子先生にインタビューをお願い致しました。



――先生の趣味、マイブームあれば教えてください。

趣味はメダカの観察をすることです。2～3年前に頂いてから今では数百匹に増えました。世話は主人がしてくれてますので私はもっぱら観察するだけです。(笑)

――ストレス解消(リフレッシュ)法がありましたら教えてください。

プライベートでのストレス解消法は家に代々祭っている神様に毎日お祈りすることです。強くお祈りすることで気分が安定しますね。それと、主人と話しをしたり、孫と遊んだりして気分をリフレッシュさせます。

――大学時代はどんな学生でしたか？

真面目な学生でした。でも朝が弱く遅刻をよくしましたが留年することなく卒業しました。

――大学時代はどんな趣味をお持ちでしたか？

テニスと勉強でした。大学の講義で毎日習うことが非常に新鮮で模型の頭蓋骨を眺めては少しの間から神経が通っていることの不思議さや、人体組織を顕微鏡で見てその綺麗さに魅了されていました。



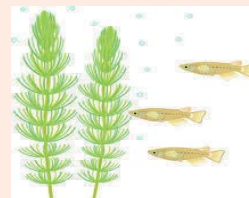
山西内科胃腸科眼科医院
山西 陽子

――医者になると決めたのはいつ頃からですか？

中学時代にシュヴァイツァーの本を読み興味を抱いていました。その後高校2年の時、先生から「お前は医者になれ」と言われ適性があるのかなと思っていましたが、大学は同級生と薬学部を受験しました。結果は同級生が合格し私は不合格。その後、私は同級生の後輩となるのが嫌でしたので医学部に進学しました。(笑)

――「眼科」を選ばれた理由(きっかけ)を教えてください。

当時は眼科にはあまり興味はありませんでしたが、男女雇用機会均等法などもなく、診療科によっては女性を拒んだり、男性を優遇する診療科が多い中、眼科医が不足しており入局大歓迎状態だったので選びました。他に同級生でもあった主人からのアドバイスもありました。



――開業までの経緯を教えてください。

開業前は日高病院で勤務医をしていましたが、子供も小学生になり義祖母から子供の教育やしつけをするように言われたので開業しました。遠方で勤務するより開業するほうがそばにいる時間が増えるとの考えでしたが、結果的には定時に帰ることができていた勤務医と比べ、開業してからの方が遅くなってしまいました。義祖母には子供の面倒をかなり見てもらったと思います。

――最後に先生の目指している開業医像もしくは医院は？

卒業後42年になり、いつ引退をするか分からない人生の最終コーナーにいます。患者さんの話をよく聞き、見落とさない、間違わない、失敗しないようにし、少しでも良くなって患者さんに帰ってもらえるよう、慎重に且つ丁寧な診察をし、患者さんに1番あった治療を考えています。こう考えると紀南病院にお願いをすることも多くなるとおもいます。目指すものとしては、大過なく毎日が無事に過ごすことです。

来年新しく病院を新築するのでバリアフリーなどを取り入れ患者さんに優しい病院になればと思っています。

先生もお体に気を付け現役医師として頑張ってください、今後とも当院と連携を密にして頂ければ幸いです。本日はお忙しい中有り難うございました。

私は当初の親元を離れるという目標だけを叶えて、大阪にやってきました。結局、高校の2年間を取り戻すのにもう2年間かかってしまい、なんとか大阪大学に入学できました。

医学部は6年制教育で、非常に長いように思われますが、本当にあっという間でした。入学後バレーボール部に入部した、週4回バレーの練習に明け暮れ(それでもあまりスリムにはなりませんでしたが)、塾講師のアルバイトも相まって多忙を極めていました。大学入学前のある先輩から、「受かったら、すぐに何か一つ目標を作れ。」と言われていた私は、友人を多くつくることを目標に掲げていました。そんなわけで、多忙な毎日にもかかわらず、声がかかった飲み会一つも断らず、飲コミュニケーションを大事にしすぎたおかげで、かなり沢山の先輩・同期・後輩に恵まれました。大学に行って、部活して、朝まで飲んで、授業に出て、バイトして...そんな生活を送っているうちに計り知れないバイタリティを得た結果、パワー系研修医の今があると確信しています。

大学を卒業して、紀南病院で研修を始めて、はや半年が経ちます。本当に知らないこと、できないことばかりで、指導して下さっている先生方やコメディカルスタッフの方々に迷惑ばかりかけていますが、その度に優しく手助けしてくれる、この紀南地方の人々の寛大さにはいつも恐れ入ります。何分にもまだまだ未熟者ですので、これからも至らぬ点が多々あるかと思いますが、何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

病院のまど

おしらせ

第61回市民健康講座

食事療法と運動療法は糖尿病治療の基本です。しかし、間違ったやり方で運動を行うと、糖尿病を悪化させたりもします。また、自分の食事をときどき見直す事も必要です。バランスの良い食事内容と正しい運動の仕方を栄養士と理学療法士よりお話しいたします。運動のしやすい服装でお越しください。

日時 平成28年11月20日(日)
午後2:00~3:00

演題 **食事と運動で糖尿病を
克服しよう。**

演者

藤本 特三 (紀南病院 副院長)
西原 聡子 (紀南病院 管理栄養士)
岩上 哲也 (紀南病院 理学療法士)
松本 大樹 (紀南病院 理学療法士)

会場 紀南病院 3階講堂

学校便り

9月16日(金)防災訓練実施。地震や津波時の避難として、近隣の高台に避難しました。また、火災時の訓練として水消火器や消火栓の放水の体験を行いました。「地震や火災の備え」についてユーモアのある消防士の講義を聞き、初期消火の大切さや避難時の心得についての意識づけになったと思います。

10月14日(金)宣誓式実施。今年のテーマは「看護師を目指すものとして専門職業人の自覚を認識する」でした。ナイチンゲールの看護の心と教えを灯にし、その灯を受け取ることで、意思を受け継ぐことを表し、少しずつ灯がともってゆく様は幻想的でした。

New face さ~ん

《医師》

- ①出身地
- ②趣味
(特技・得意技)
- ③一言アピール
(敬称略)



ひぐち まさとし

《泌尿器科》樋口 雅俊

- ①和歌山市
- ②バスケ・ドラム
- ③フットワークの軽さが売りです。



のぐち ともこ

《産婦人科》野口 智子

- ①大阪
- ②買い物
- ③10月から紀南病院で働かせていただくことになりました。不慣れなことが多いと思いますがよろしくお願ひします。

daikoku 株式会社 大黒

本社：〒640-8525 和歌山県和歌山市手平 3-8-43

和歌山事業所 : 〒641-0012
和歌山市紀三井寺855-71

紀三井寺事業所 : 〒641-0014
和歌山市毛見 1111-1

大阪支店 : 〒550-0002
大阪市西区江戸堀 3-5-27

南大阪支店 : 〒594-0031
和泉市伏屋町2-16-11

紀南支店 : 〒646-0011
田辺市新庄町3778-2

神戸支店 : 〒650-0023
神戸市中央区栄町通5-2-6

奈良支店 : 〒630-8115
奈良市大宮町4-295-10
奈良朝日生命川口ビル 1F

関西空港営業所 : 〒590-0523
泉南市信達岡中919-1

新宮営業所 : 〒647-0052
新宮市橋本 2-5-61

東京麹町オフィス : 〒102-0083
東京都千代田区麹町3-5-2
BUREX 麹町 301号

京都丸太町オフィス : 〒606-8395
京都市左京区丸太町通川端東入
東丸太町32-3 上田ビル 3F

DAIKOKU MEDICAL SUPPLY

保健・医療・福祉の分野で、

「生命を守る人の環境づくり」を通じて

地域の発展に貢献することが

私達の使命です。

SEIKO MEDICAL
医療の先へ。セイコーメディカル株式会社

■本社
〒640-8287 和歌山市錦港6丁目9番地の10
TEL. 073-435-2333 FAX. 073-435-2223

■大阪支店
〒595-0012 東大阪市北豊中町2丁目5番28号
TEL. 0725-31-3610 FAX. 0725-31-3619

■医大前営業分室
〒641-0012 和歌山市紀三井寺768番地の13
TEL. 073-448-3787 FAX. 073-448-3781

■田辺営業所
〒646-0011 田辺市新庄町2744番地
TEL. 0739-25-4535 FAX. 0739-25-4578

■新宮営業所
〒647-0072 新宮市橋本20番22号
TEL. 0735-31-9130 FAX. 0735-31-9133

■奈良営業所
〒632-0082 天理市荒崎町56番地の4
TEL. 0743-64-3607 FAX. 0743-64-4810